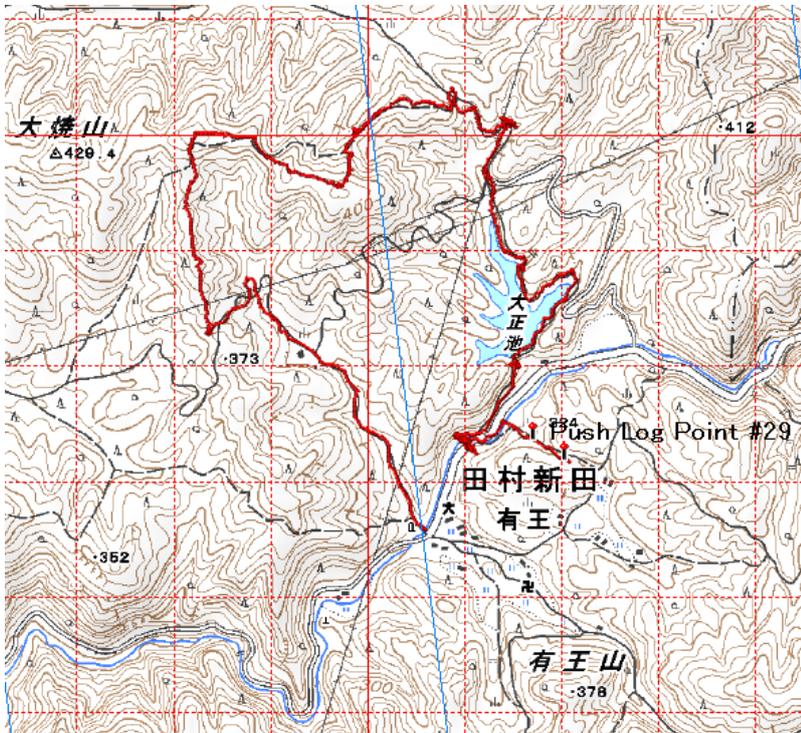


	大焼山 (井手町・429m)	山行名	読図山行
ルート	駐車場—大正池—林道分疑点—大焼山直下 (400m) —林道—駐車場 (4,7km)		
山行日	2014・6・21 (土)	天気	晴れ
参加者 15人	リーダー：金本 サブリーダー：北川 指導講師：丸山 m：佐坂、藤村、上田、園上、中田、 w：大林、江平、伊藤、秋山、上田秀、頼、五百田、永田 (講習のみ)		
ルート図 別添付	コースタイム (座学・山行)		
	18日 (水) 読図山行の座学	大焼山分岐	着 16:04
	駐車場 着 14:05	林道	16:33
	大正池 14:22	駐車場	16:55
	林道分れ 15:03		
	p 1 15:35		
<p>前日まで天気を心配したが、今日は夜まで大丈夫の予報でひと安心。13:30 新田辺集合、車3台に 同乗し玉水橋からJR玉水駅を経て大焼山の駐車場に到着した。</p> <p>「18日第1公民館で丸山講師のプロジェクターを使つての「読図山行」の講習を受けて、受講者 は予備知識を得た。 (山で迷わないために) ① 地形図を読む ②山の地形 ③コンパスの使用法 ④読図力を高める ⑤ナビゲーション ⑥GPSの利用 カシミールの地形図で詳しく教えていただいた。特に山の地形では、山筋・谷筋な どの見方、記号、縮尺など」</p> <p>受講者は、会のGPS3個および地形図、緯度・経度計測地点の記録表をもって3班に分けて出発 した。ポイントごとに緯度・経度を測定して記録した。 GPSロガー測定の第1回目は大正池で、以降随時測定した。 磁石を使つての山行では、自分の歩く方向を反対にしたり、地図の南北を取り違えたりする人も見 受けられたが、読図山行の終盤は、みんなが間違いなく使えるようになっていた。また、GPSロガ ーでは、指定された緯度・経度を測定し、みんなが立ち止って確認した。GPSロガーの使い方に慣 れてきて、今回の研修の成果が出たと思います。</p> <p>登坂中、一般登山ルートから大焼山への登山口が見つけられず、通過してしまつたが、丸山さんに 教えていただいて作成した地図上のルートを進むことが出来た。大焼山の分岐点より、急坂を下り帰 り道の林道に出てほつとした。</p>			
(ヒヤリハット) ありません			

使用した1つの班のWPL-2000のGPSの軌跡をカシミール3Dで表示しました。WPL-2000のGPSロガーは液晶表示部分が小さいので、秒以下を四捨五入して表示させていることと、谷は衛星の補足数が少なくなることや、葉の茂った樹木の下では誤差が出てきます。講習で歩いたところの軌跡はそんなに深い谷でないので、ほとんどが地形図の道と同じ位置になっていますが送電線下N34°48'47"、E135°50'48"付近の軌跡は、地形図に書かれている道と3秒ほど位置がずれ、大きく誤差が出た軌跡になっています。



N34° 49' 00"

E135° 51' 00"

本体重量が39グラムと軽量小型で、荷物にはならないので、装備品として是非とも持参され、活用してください。

講習では、GPSで緯度・経度を読み取り位置を確定し、歩く方向をプレートコンパスでセットして歩き大変面倒でしたが、GPSナビでは、家でパソコンにルートを設定しGPSに転送すると液晶画面に歩いた軌跡、次のPointまでの距離、到達時間、進む方向、現在の高度、平均速度、最終目標までの距離、到達予測時間、移動していた時間、停止していた時間、高低表等を表示させることができ、予定のルート間違いなく歩いているかがすぐに分かります。会にはGPSナビが1台あるので、これも一度利用してみてください。

また、最近のスマホはこれに近いことが出来るようになり、さらなる利点は通信機器なので一定時間毎に軌跡を送信するようしておけば、留守本部で現在位置の把握できることです。今回の講習をきっかけに、常日頃から地形図を読み、間違いやすい所や、危険なところを事前にチェックし、安全山行に繋がればと思っています。今年の4月から地理院地図(新版)が使用できるようになり、これまで記載されていなかった山道も描かれ以前より正確になり、送電線も復活表示されていました。講習では地理院地図(新版)に改定になっていたことを知らず、改定前の地形図を使用したことをお詫びします。

丸山敏文

感想文

大焼山登山に参加して

藤村 敏幸

今回は座学である程度コンパスの使い方を習得してからの、練習登山として臨みました。地図でみるより大きな谷の中の大正池からの出発で、コンパスにより進む方角を知り、又位置は GPS データロガーにより確認しました。地図には事前に緯度・経度共に 10 秒単位まで記入されており、GPS が示す位置を正確に知ることができました。測定を何回も行い分からないことを、都度先輩に教えていただき、こつが身につくようになりました。コンパスを磁北線に合わせる時に南北を逆にしなければ、間違いなく目的地にたどりつけないと思います。私もこのような地図をパソコンから作成してみたいと思いますので、作成方法の講習会などを希望します。終日曇りで温度も上がらず、楽しい山登りでした。企画と引率をしていただきました役員の皆様、御苦労さまでした。

読図山行に参加して

江平愛子

初参加しました。机上での勉強会では、プレートコンパスの使い方に戸惑いましたが、実地での測定を何度か行ううちに、少しずつ慣れてきました。

等高線地図をじっくり眺めるのは小学生以来（?!）で、頭がフリーズしそう

になりましたが、GPS を使用し地図上の位置がわかると、気持ちが落ち着きました。今回佐坂さんのスマートフォンのアプリで、地図上の現在位置を確認できるのを見て、今更ながら科学技術の進歩にビックリです。

等高線が苦手な私にとって、地形を読み取ることは大変難しく、実際の山行での訓練を積み重ねていくことが大切だと思いました。

感想文

読図山行に参加して

伊藤典子

A4 サイズの下敷き紙ばさみに地図と GPS 記録表を挟み、コンパスと赤ペンを片手に GPS ロガーを（順番に交代で）持ち、ポイントを通るたび GPS の値を書き込み、次のポイントまでをコンパスで測り、行く方向を確認しながら歩く。まるでオリエンテーリングに参加しているようで実に面白かったです。最初は計測にまごついて時間がかかりましたが、数をこなすうちにスムーズにできるようになりました。しかし、誰もが地図やコンパスや GPS やスマホを見ながら歩くので、全体的にかなりゆっくりペースとなり、目標の大焼山の頂上まで行けなかったのは残念でした。途中、コンパスの指し示す方向に確かに道が続いているのを確認したとき、思わず声が出るほど感動しました。そして「おー、地図の読める女！」と褒められて、ちょっといい気分になりました。単にからかわれていたのだと分かっているけど……。

GPS 記録表の数字を見ると、

北緯 $34^{\circ} 48' 25''$ ~ $34^{\circ} 49' 02''$ 東経 $135^{\circ} 50' 41''$ ~ $135^{\circ} 51' 20''$

の範囲での歩行でした。数字に大きな変動がないので、記録していてもつまらなかったのですが、地球規模でいうとほんの少しの上下左右の移動でしかなかったのだと実感しました。

地図を見てパッと現在地が見つからない、北緯・東経の位置が直ぐに指し示せない、普段からもそうですが、地図の上でも方向音痴は筋金入りです。読図をマスターするにはどれだけ時間がかかるかわかりませんが、少しずつでも経験できればいいかなと思います。今は便利なスマートフォンもありますね。（私はまだ持っていません。）

最後になりましたが、お世話してくださった皆様、ありがとうございました。大変いい勉強になりました。